

第2号議案 今後の利用促進策について

名鉄西尾・蒲郡線活性化計画

平成23年3月

名鉄西尾・蒲郡線対策協議会

はじめに

名鉄西尾・蒲郡線は、明治末期～昭和初期にかけて開通し、以来、「地域の足」として三河地方南部の発展を支えてきました。しかし、名古屋鉄道株式会社のこの路線の運営は、たいへん厳しい状況を迎えています。

この区間の平成 21 年度の輸送人員は約 304 万人、平成 8 年度の約 405 万人からおよそ 100 万人減少しています。また、この区間の収支は、平成 20 年度に約 8 億 7 千万円の赤字を計上、平成 21 年度には約 8 億 6 千万円の赤字となりました。

平成 17 年 12 月に名古屋鉄道株式会社と沿線の西尾市、蒲郡市、吉良町、幡豆町の 2 市 2 町で「名鉄西尾・蒲郡線対策協議会」を設立し、沿線市町は、「三河地方南部の広域ネットワークを構成する重要な路線であり、高校生や高齢者などの地域住民にとって欠かすことのできない路線である。」と、これまでに 8 回協議の場を設けました。

平成 21 年 9 月の第 6 回対策協議会から愛知県も対策協議会に参加し、平成 22 年 11 月の第 8 回対策協議会では、(1) 三河南部地域の生活交通に必要不可欠な名鉄西尾・蒲郡線を道路と同様の社会基盤として捉え、その維持存続を図るため、沿線市町は、名鉄に対して鉄道施設保有に係る費用の一部(年額 2 億 5 千万円)を 3 年間(支援対象期間：平成 22 年度から 24 年度)にわたり支援すること、(2) 沿線市町、愛知県及び名鉄は協力して、沿線の住民団体、小中高等学校又は企業などと連携を図り、各種イベントの開催、啓発活動、駅周辺環境の整備などを行い、名鉄西尾・蒲郡線の利用促進に努めることを決定しました。

名鉄西尾・蒲郡線が地域の社会基盤としての機能を継続的に発揮するためには、沿線市町をはじめすべての関係者による様々な利用促進の取組が必要です。

蒲郡市では、平成 21 年 9 月に「市民まるごと赤い電車(名鉄西尾・蒲郡線)応援団」(総代連合会はじめ 22 団体)が立ち上がり、蒲郡市だけでなく、沿線市町にも呼びかける活動が始まりました。吉良町では、平成 20 年 9 月に「名鉄電車利用促進懇談会」が発足し、平成 22 年 1 月の「名鉄電車利用促進大会」で、沿線高等学校、中学校生徒の立場から路線の存続を強く訴えました。幡豆町では、毎年、NPO 法人幡豆・三河湾ねっとが「友引市」を開き名鉄利用促進と幡豆町地域資源をアピールし、また、町民の方が中心となった沿線ウォーキングも定期的に行われています。西尾市では西尾高等学校が、愛知こどもの国駅から西尾駅までの 20.5 キロで、名鉄存続を訴えながら体感ウォークを開催しました。ゴールの西尾駅前広場では、沿線市町の地域団体代表が名鉄存続を力強く訴えかけました。

このように、沿線 2 市 2 町の地域住民が同じ目標を掲げ、今まで取り組んできた利用促進活動を広域で実施する取組みも始まっています。

こうした地域住民の声をしっかり反映させ、さらに観光や食といった地域資源を最大限活用し広域的に利用促進に取り組んでいくために、商工会議所、観光協会等の経済界、

近隣市町等との連携を図り、地域が一体となって名鉄西尾・蒲郡線の利用促進を図る必要があります。

そのため、名鉄西尾・蒲郡線対策協議会は、名鉄西尾・蒲郡線活性化計画の施策の方針を「三河地域南部の重要な社会基盤である名鉄西尾・蒲郡線を将来にわたり、鉄道として維持していくために、行政、地域住民、経済界、名鉄等がそれぞれ行っている取組みを連携、充実させ、総ぐるみで利用促進・沿線の活性化を図る。」とし、今後充実させていく利用促進・活性化策の展開イメージを整理して示すとともに、計画目標を「平成24年度の年間輸送人員を318万7千人(利用促進・活性化を行わなかった場合と比べ54万2千人増)にする」と設定します。

そして、名鉄西尾・蒲郡線活性化計画の推進体制を強化するため、名鉄西尾・蒲郡線活性化協議会(仮称)を設置し、計画目標を達成するためのアクションプランとして利用促進実施計画を策定することとしています。

1 活性化計画の施策方針と地域をあげた利用促進・活性化策の展開イメージ

現 状

- ・平成 16 年 4 月 1 日、三河線廃止
- ・平成 20 年 6 月 29 日、吉良吉田駅で、西尾線・蒲郡線がそれぞれ折り返し運転
- ・輸送人員は減少傾向、平成 20 年度は 10 年度に比べ 12.5%
- ・西尾駅、東幡豆駅、こどもの国駅、蒲郡競艇場前駅の減少が顕著
- ・平成 21 年度は 8.6 億の経常損失
- ・割引率の高い通学定期利用者が、半数以上を占める
- ・沿線市町 7 高校の通う生徒のうち、約 780 人(約 15%)が利用
- ・名鉄のコストは大手民鉄の中で低い水準。他の地方鉄道との比較において、人件費は同水準、修繕費が高い。

これまでの経過

- ・ 2 市 2 町、県、名鉄、運輸局による「名鉄西尾・蒲郡線対策協議会」において協議

↓

- ・ 西尾蒲郡線を道路と同様の社会基盤として捉え、その維持継続を図るため、沿線市町は名鉄に対して鉄道保有にかかる費用の一部を支援する。
- ・ 沿線市町、愛知県及び名鉄は協力して、沿線の住民団体、小中高等学校又は企業などと連携を図り、各種イベントの開催、啓発活動、駅周辺環境の整備などを行い、名鉄西尾・蒲郡線の利用促進に努める。

主な課題

- ・ 沿線住民・団体等の連携を強化、広域化
- ・ 利用促進・活性化に向けた沿線住民・団体等による積極的な関与
- ・ 収入効率の良い通勤定期利用者や定期外利用者の利用促進
- ・ 駅アクセスや乗り継ぎの利便性向上
- ・ 西尾・蒲郡線未利用者の潜在需要の掘り起こしと取り込み
- ・ 近隣市町も含めた広域的な取組

利用促進・活性化策展開イメージ

計画目標の設定

↓

西尾・蒲郡線活性化協議会(仮称)の設置

↓

西尾・蒲郡線活性化協議会(仮称)において、目標を達成するための利用促進実施計画(具体的なアクションプラン)を策定

(計画策定に必要な調査事業については、国に対し支援要請)

施策方針

三河地域南部の重要な社会基盤である名鉄西尾・蒲郡線を将来にわたり、鉄道として維持していくために、行政、地域住民、経済界、名鉄等がそれぞれ行っている取組みを連携、充実させ、総ぐるみで利用促進・沿線の活性化を図る。

西尾・蒲郡線が地域の社会基盤としての機能を継続的に発揮するためには、すべての関係者が一丸となり、地域をあげた取組が必要

< 具体的な利用促進・活性化策の展開イメージ(これまでの取組を踏まえて) >

取組主体等	具体的取組内容	~ H22	H23	H24	H25~
1 名鉄を主体とする利用促進	名鉄福地駅舎新築(SFカード化)				
	名鉄上横須賀駅舎建替(SFカード化)				
	名鉄吉良吉田駅舎改築(SFカード化)				
	電車沿線ハイキング(近年ではH20.11、H21.3、H21.5、H21.12など)			随時	
	広報誌 Wind への掲載、中京テレビ「ゴリ夢中」での特集			随時	随時
	でんしゃ旅(吉良、西浦、三谷)の各コースの設定			随時	随時
	イベント時の増員、ポスター掲出やチラシ配布、グッズ提供等の協力			随時	随時
	イベント列車の運行、他社商品とのタイアップなどの旅客誘致			随時	随時
2 沿線市町の利用促進(ハード)	駅周辺の名鉄用地の活用に対する協力(駐車場やトイレ、花壇等)			随時	
	名鉄福地駅に駐車場・駐輪場を整備				
	名鉄福地駅トイレ整備(名鉄敷地内)				
	くるりんバス路線延長				
	名鉄上横須賀駅前に公衆トイレ建設(名鉄敷地内)				
名鉄吉良吉田駅前に公衆トイレ建設(名鉄敷地内)					
名鉄吉良吉田駅南駐輪場設置事業					

< 利用促進・活性化策の方向性 >

- ・ 沿線住民・団体等の活動の活性化・ネットワーク化
- ・ 市民応援団体・住民等との協力・共催、活動支援
- ・ 観光・食など地域資源の最大活用、新たな新スポットの選定
- ・ 魅力ある路線としてのPR
- ・ 駅を中心としたまちづくり、駅前周辺整備
- ・ 他の交通機関との乗り継ぎ利便性の向上
- ・ 近隣市町との連携、イベント広報・PRの相互協力

地域代表、経済界等の声を十分反映し、
利用促進実施計画を策定

取組主体等	具体的取組内容	～ H22	H23	H24	H25～
2 沿線市町の利用促進(ハード)	名鉄吉良吉田駅周辺駐車場等整備事業(H24 からテスト予定)				
	名鉄三河鳥羽駅周辺整備事業(公衆便所・駐輪場・駐車場等整備)(名鉄敷地内)	○			
	名鉄東幡豆駅一般車乗降場整備事業(名鉄敷地内)	○			
	名鉄蒲郡駅横に蒲郡市観光交流センター建設				
	名鉄蒲郡駅横に駐輪場整備				
	名鉄蒲郡競艇場前駅駐輪場整備				
	羽栗地区(形原町) 土地区画整理事業				
3 沿線市町等の利用促進(ソフト)	団体・親子利用補助				
	沿線市町等情報(イベント情報等) を広報へ掲載				
	広報特集・ホームページにて利用PR				
	沿線観光マップの作成				
	電車でGo!(未就学児童の保護者へ名鉄こどもの国駅までの乗車券を配布)				
	「エコ通勤デー」の実施(町職員による名鉄等利用出勤: 毎月第2・4水曜日)				
	レンタサイクル「赤馬Go!」を吉良吉田駅など町内5か所に設置(無料)				
	はず夢ウォーク	○	○	○	○
	きら・はずビーチビューウォーキング	○	○	○	○
	幡豆町職員エコ通勤	○			
	市民まるごと赤い電車(名鉄西尾・蒲郡線) 応援団への補助				
	名鉄西尾・蒲郡線利用宿泊客へ1000円割引補助				
	毎月第一水曜日にエコモビ実施(蒲郡市職員)				
	エコモビリティライフ(クルマと公共交通、自転車、徒歩などをかきこく使い分けるライフスタイル)の推進				
	沿線イベント時のグッズ提供				
4 住民団体を主体とする利用促進	住民団体の立ち上げ				
	名鉄電車利用者増強大会(H20.11.23)				
	名鉄電車利用促進大会(H22.1.30)				
	きら・はずビーチビューウォーキング(H21.10.11、H22.5.8)				
	町内子ども会の社会見学で名鉄電車利用(従来バス)				
	ちょこっとウォーキング	○	○	○	○
	穴弘法ウォーキング	○	○	○	○
	電車でおでかけウォーキング	○	○	○	○
	友引市の開催	○	○	○	○
	市民まるごと赤い電車(名鉄西尾・蒲郡線) 応援団結成(H21.9)				
	名鉄西尾・蒲郡線応援メッセージ号作成(H21)				
	名鉄西尾・蒲郡線利用促進アイデア箱設置(H21～)				
	名鉄でGO! 農林水産まつりへレッツGO!(H22.2)				
	応援団(ピンバッジ・ステッカー・のぼり・たすき)利用促進グッズ作成				
	蒲郡市老人クラブが市民ラジオ体操のつどいに名鉄利用(H21.11)				
	赤い電車(名鉄西尾・蒲郡線) 応援団員募集!				
	名鉄でGO! 形原温泉あじさいまつりへレッツGO!				
	赤い電車応援団写真展の開催(市内3箇所)				

取組主体等	具体的取組内容	～ H22	H23	H24	H25～
4 住民団体を主体とする利用促進	赤い電車で行く！クリーンウォーク				
	赤い電車（名鉄西尾・蒲郡線）写真コンクール、写真展				
5 経済界・観光協会等を主体とする利用促進	J A主催農業まつりにてP R				
	観光誘客事業にてP R				
	吉良吉田駅まで無料送迎（吉良温泉観光組合加盟のホテル等利用者）				
	吉良温泉観光組合主催イベント（ハワイフェスティバル等）で名鉄利用をP R				
	三河鳥羽駅における鳥羽市の開催	○	○	○	○
	蒲郡青年会議所「鉄道フォーラム」を開催（H21.9）				
	西浦・形原温泉旅館協同組合が割引補助を各旅館等でP R				
	事業者広報紙に「エコ・モビリティ推進運動」を掲載				
	あさり飲食店マップ作成（沿線商工会議所連携）				
6 学校関係機関等を主体とする利用促進	西尾高校：名鉄西尾・蒲郡線体感ウォーク				
	子ども会活動での利用促進				
	遠足などの学校行事での利用促進				
	町内保育園・小中高校名鉄電車利用（遠足、社会見学、校外学習、部活）				
	吉良中学校生徒自作ポスターを店舗等に配布し名鉄利用のP R				
	吉良高校生による駅周辺清掃作業、住民団体と連携してのP R活動				
	鳥羽地区子ども会デイキャンプ	○	○	○	○
	蒲郡あけぼの幼稚園が行事に名鉄利用、作品展で利用促進P R活動				
	形原むつみ子ども会がこどもの国デイキャンプで名鉄利用（H21.7）				
	愛知工科大学A U T祭で名鉄利用促進をP R				
	蒲郡市子ども会連絡協議会が「青空まつり」に沿線市町の子ども会を招待（H21.10）				
	蒲郡市老人クラブが市民ラジオ体操のつどいに名鉄利用（H21.10）				
	形原地区子ども会ドッチボール大会で名鉄利用促進をP R				
	沿線市町6中学校（バレーボール女子）合同練習会の開催（赤電カップ）				
	三河湾健康マラソン大会で赤い電車応援団のたすきをかけて走行（P R活動）				
7 沿線既存施設の活用	憩いの農園				
	レンタサイクル「赤馬 Go！」の発着所として駅周辺公共施設を利用				
	ウォーキングコース（日本ウォーキング協会認定）の発着場所として御菓子所「東角園」を指定				
	愛知こどもの国（電車利用による入園・イベント参加等）	○	○	○	○
	蒲郡まつりの開催	○	○	○	○
	竹島ベイパークにグラウンドゴルフ場オープン	○	○	○	○
	蒲郡生命の海科学館で子供向けイベントを開催	○	○	○	○
	蒲郡シーサイドジャズフェスティバル（竹島埠頭）の開催	○	○	○	○
	竹島水族館リニューアルオープン	○	○	○	○
	愛知こどもの国桜まつり等における名鉄電車利用促進、老朽化した遊具等の修繕				

平成23年度以降の取組は、支援対象期間の計画に限定せず中長期の計画として取りまとめたもので、P D C Aサイクルを通じて計画の見直し・充実を図るだけでなく、各種行政計画等にも反映していく。

2 計画の目標

沿線4市町の合計人口は平成22年頃を境に減少に転じると見込まれるが、近年実施してきた利用促進・活性化策を充実させ、地域をあげて取り組むことにより利用者数の減少を補い、対前年度比で毎年1.6%ずつ増やし、平成24年度の年間輸送人員を318万7千人（利用促進・活性化を行わなかった場合と比べ54万2千人増）にすることを目標とする。

将来推計人口の減少割合を加味した直近3年間の平均伸び率

数値目標

対前年度比で毎年1.6%ずつ増やし、平成24年度の年間輸送人員を318万7千人（利用促進・活性化を行わなかった場合と比べ54万2千人増）以上にする。

表1 年間輸送人員（西尾駅～蒲郡駅間、名鉄全線）の推移

（単位：千人）

		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年4月 ～23年2月
年間輸送人員	西尾駅～蒲郡駅間	2,927	2,994	3,039	(2,836)
対前年度比	西尾駅～蒲郡駅間	98.8%	102.3%	101.5%	(101.3%)
	名鉄全線（参考）	101.2%	100.6%	97.4%	(100.9%)

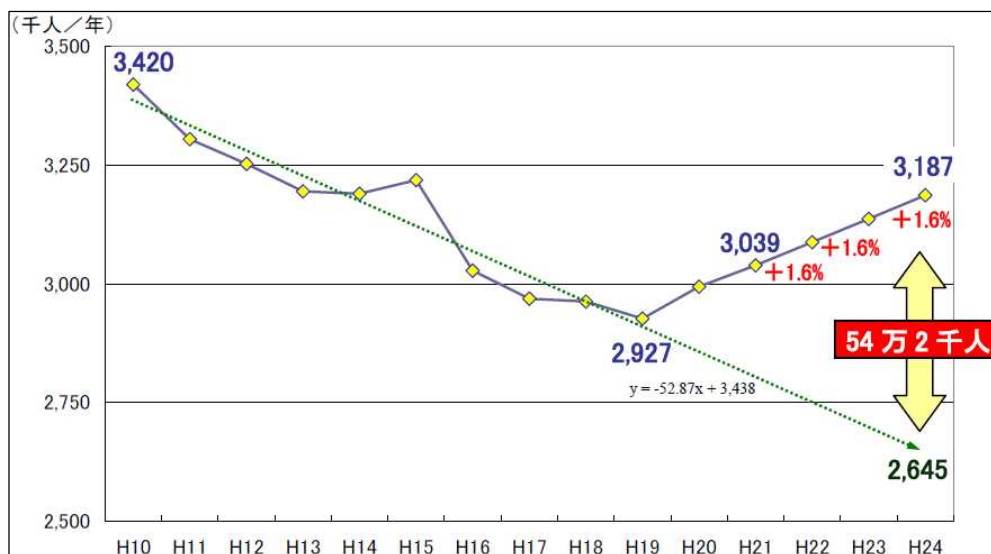
資料：名古屋鉄道

表2 将来推計人口の減少割合

（単位：千人）

	H17 (2005)	H22 (2010)	H27 (2015)	H32 (2020)	H37 (2025)	H42 (2030)	H47 (2035)
人口	221,272	222,169	220,910	218,096	214,270	209,584	203,900
5年間の増減割合	+1.7%	+0.4%	△0.6%	△1.3%	△1.8%	△2.2%	△2.7%
年平均増減割合	+0.3%	+0.1%	△0.1%	△0.3%	△0.4%	△0.4%	△0.5%

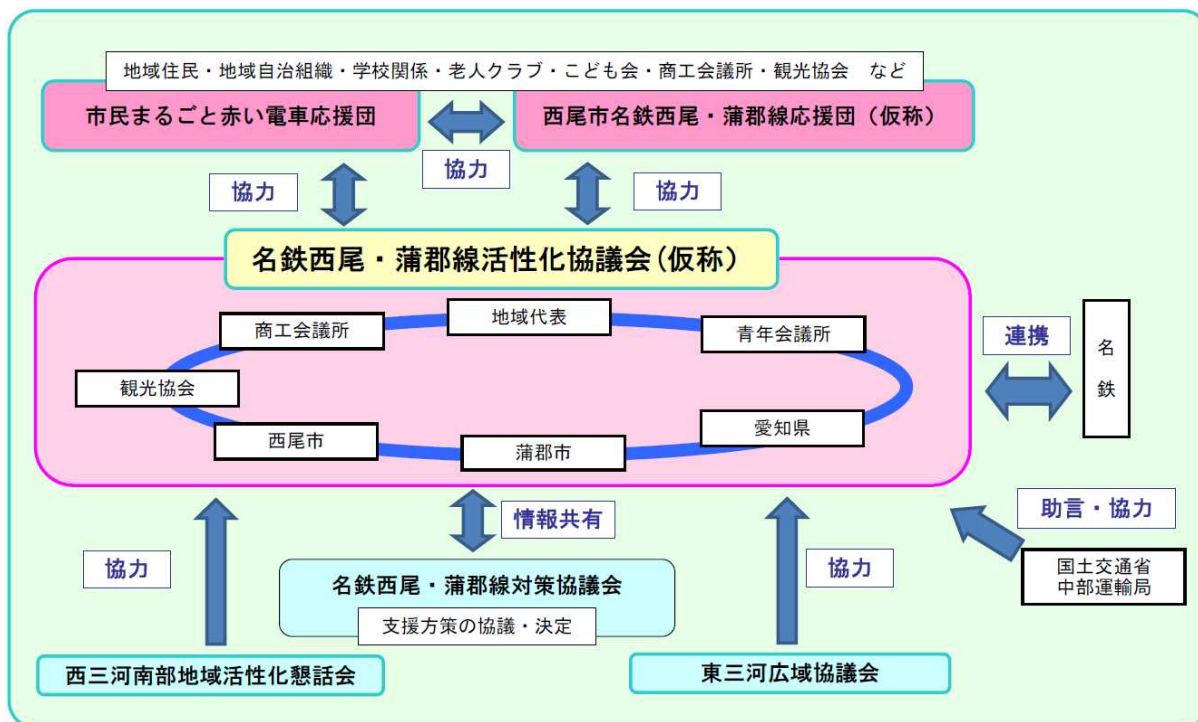
図1 年間輸送人員の推移と目標



3 施策の推進体制

名鉄西尾・蒲郡線活性化協議会（仮称）を中心に、市民応援団や近隣市町との広域協議会などと協力し、地域住民、経済界、行政、交通事業者が一体となって地域をあげて利用促進・沿線の活性化を図るものとする。

図2 活性化計画の推進体制イメージ図



4 目標を達成するための実施計画（アクションプラン）の策定

目標を達成するため、名鉄西尾・蒲郡線活性化協議会（仮称）において、地域代表、経済界等の声を十分反映した利用促進実施計画（アクションプラン）を平成 23 年度内に策定する。

計画（Plan） 実行（Do） 評価（Check） 改善（Act）のPDCAサイクルを通じて、計画の見直し・充実を図っていく。